

安全表示で

人づくり

ビーポップを活用した安全活動事例

第8回

東京ラヂエーター製造株式会社【藤沢工場】

会社概要

●本社工場所在地：神奈川県藤沢市 ●設立：1938年10月 ●従業員数：537名(連結887名) ●主な事業内容：ラヂエータ、EGRクーラなどの自動車用熱交換器部品およびオイルパン、燃料タンクなどの車体部品の開発・製造・販売

オリジナルの注意喚起表示が好評 「こんなのも作って」とオーダーが！

神奈川県藤沢市に本社工場のある東京ラヂエーター製造(株)は、1938年の設立以来、主にトラックや産業建設機械用熱交換器の専門メーカーとして数多くの実績と信頼を積み上げてきました。近年ではEGR(Electronic Gas Recirculation)クーラというEGRシステムに必要な不可欠な部品の設計・開発・製造を行っており、環境性能向上と高効率化を目的に多くの車体に装着されています。

そんな同社では第1回から「人づくりコンテスト」に参加し、今回まで3回連続の入賞を果たしています。そこで同社の宮山信一工場長、工場統括課の糸谷英之課長、そして実際にビーポップで受賞作を作成した富金原佳子さんに、安全活動の取組と、安全表示の意義などについてお話を伺いました。

常に基本に立ち返る 日々の地道な安全活動を推進

同社の安全活動について糸谷さんは「従業員の安全と健康の確保は全てに優先する」という基本理念のもとに、日頃の活動を行っています。その柱は、一、安全活動を推進するための「私の安全宣言」を記入したTRSグリーンカードを携行し、年度末にはそれに対する自己評価を行う。二、安全衛生委員会メンバーによる安全パトロールを月1回実施する。三、自職場の安全パトロール実施。四、始業前に安全啓発の放送を流す。といった

活動です」と語ります。さらに「安全基準の項目は数が多く、なかなか全部は覚えられません。そこで日めくりカレンダーのようなものを作成し、それを毎日始業前に読み合わせしています」とも。ユークで地道な活動が何われます。

そしてもう一つ、力を入れているのが安全表示だといいます。同社では板金加工時の創傷挟まれなどの危険が多く、さらに工場内でのつまずきなどを防止するためにも、注意喚起の表示は重要でした。

富金原さんによると、「それまで既製ステッカーを購入していたのですが、剥がれたり、汚れたりするたびにコストがかかる上に、掲示しても『なんか貼ってるな』『ぐらいいいしか思われず、オリジナルティーのあるステッカーを探していました』というのがビーポップ導入のきっかけだそうです。導入後、ビーポップの反射蓄光シートで、フォークリフトの注意喚起ステッカーを作ったところ予想以上に好評で、「こんなステッカー作れない?」と依頼が来るほどに。富金原さんは「これからも工場のみならずと連携し、オリジナルティーある安全表示を作成していきます」と意気込みを語っています。

心の環境整備に役立つ安全表示に これからも継続して取り組んでいく

さらに安全のためには、環境整備が大切だと訴えるのは宮山さんです。「歴史が長い当社では、古い設備も多くあり、安全

▶2018年第一回コンテストの受賞作。フォークリフトの注意喚起ステッカー



▲2019年第二回コンテストの受賞作。段差に貼ったつまずきへの注意喚起ステッカー。少しの明かりでも文字・図柄が浮かび上がる反射シートを使用している



東京ラヂエーター製造(株)藤沢工場のみなさん

撮影のために十分な感染症対策を行った上で一時的にマスクを外していただきました

基準を満たしていない設備による災害もありました。そこで2016年頃から、安全第一で環境を整備していこう、と徹底して設備改善を行いました。これがターニングポイントとなり、近年では設備に起因する災害はほとんどなくなりました」と宮山さん。一方で災害ゼロに向けて大切なのは設備だけでなく「心の環境整備」だとも強調します。「ルールをちゃんと守り、自ら考え、自ら行動することが心の環境整備だと思います。これを常に振り返るために安全表示は大切な役割を果たします。ですから、これからもオリジナルの注意喚起活動を継続したいと思っています」と、安全表示の広がり期待を寄せていました。

※1 [EGRシステム] ディーゼルエンジンの排ガスの一部を吸入空気と混合させることにより、酸素量を減らし、排気中のNOx(※3)を低減させる技術 ※2 [TRS] 東京ラヂエーター製造の略称
※3 [NOx] 窒素酸化物のこと。中でもNO₂は低濃度でも呼吸器系の病気を引き起こすので、環境基準が定められている

お問い合わせ

マックス株式会社

オフィスプロダクツ営業部

安全表示・人づくりコンテスト事務局

人づくりコンテスト

検索

TEL:03-3669-8108(代) Mail:anzen@max-ltd.co.jp